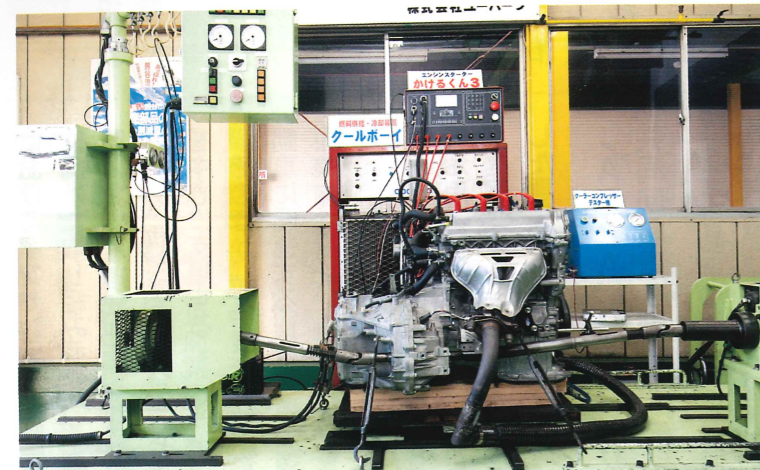




納入先に収益を確保してもらうため販売は事業者に限定している



エンジンテスターで10項目以上の性能を確認する



リサイクルパーツは外装品から機能品まで多岐にわたる

直結する。見た目で状態が分からない機能部品は特に重要だ」（清水社長）。リサイクルパーツとして性能の判別が難しい部品まで丁寧に対応することで、自社ブランドの価値向上につなげる狙いだ。

バッテリー再利用技術では特許を取得

バッテリーのリサイクルは継続して注力してきた。鉛バッテリーからハイブリット車（HV）のニッケル水素バッテリーまで研究を行い、事

業化してきた。ニッケル水素バッテリーの再利用技術では特許を取得。自動車メーカーからの注目度も高く、技術者が視察に訪れることもあったという。

今後は、リチウムイオンバッテリーの資源活用に取り組んで30年までに一定の成果を上げる計画を立てている。ニッケル水素バッテリーと比較して、リチウムイオンバッテリーは耐久性が高いことから補修部品のニーズは高くなると見込む。

その上で「電動車の普及に伴い自動車の構成部品の製品寿命は延びるだろう。その環境下で、自動車以外の分野と協力して事業の付加価値を高める必要がある」と清水社長は指摘する。自動車の技術進歩とともにメーカーとの連携が必要と考え、協業の拡大も検討している。

コロナ禍を契機に従業員教育の改善にも着手した。従来は店舗に集めて実施していた研修は、リモートツール活用でオンライン化した。

て効率化を図った。顧客対応品質の向上に向けて、フロントスタッフのパソコンを常時ウェブビデオに接続し、実際の接客を拠点間で視聴できるように変更した。「対面式の情報量には及ばない」とするものの、一定の効果が上がっているという。

同社は、品質の統一や業界水準を引き上げることが自動車リサイクル市場の拡大につながるとして、同業他社の相互支援を呼びかけている。将来的にはガソリン車を中心とした内燃機関車両市場が縮小することを見据え、バッテリーの二次利用に向けた産学連携を進める。埼玉県内の企業や学校と定期的に勉強会などを実施しており、新たな技術に柔軟に対応できる企業体制の構築を目指している。

（梅崎 信孝）



清水道悦社長

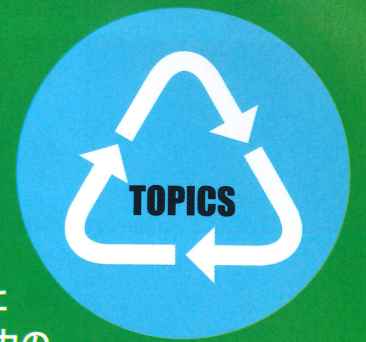
全製品テスターでチェック、良質な部品提供にこだわり

新たな技術に柔軟に対応 自動車以外の分野と協力も

ユーパーツ（埼玉県熊谷市）

1975年創業のユーパーツ（清水道悦社長、埼玉県熊谷市）は、東京、埼玉、群馬、栃木、千葉、愛知で営業拠点を展開。「リサイクルの質」にこだわった良質な自動車部品の提供に取り組み、競争力の強化と収益力の向上につなげている。適切な資源循環の実現を目指した研究開発にも注力し、エンジンテスターの開発やバッテリーのリビルトなどを手掛けるなど幅広い活動を通じ業界の先陣を切っている。

リサイクル特区



車両の保管方法に配慮して製品の品質を高める

業界全体の成長に尽力

「創業した父の代から業界のリーダーングカンパニーを目指して事業を行ってきた」（清水社長）という同社。自動車リサイクル業界全体の成長につながることも目指してさまざまな事業を行ってきた。

自動車の部品生産から事業を始めたことから、解体事業者として使用済み自動車（ELV）を処理することよりも、リユース部品の生産・販売に力を入れてきた。車両の取り扱いにはリユース部品の生産を考慮して、リフトを使用するなど1台ずつ丁寧に保管する。

同社は、エンジンテスターを経済産業省の支援を受けて開発。効率的な製品生産に役立て、同業他社やリビルトメーカー向けにも展開してきた。

そのほか、生産現場にはエアコンプレッサーやスターター、オルタネーターのテスターも用意している。これらの機器を自動車リサイクル事業者が購入するのは珍しいが、同社では品質と販売の責任を追求するために導入した。

生産した全製品をテスターでチェックし、性能を新品部品の数値と比較することで品質を担保する。「性能を確認することは顧客満足に